

白峰三山と駒仙の好展望、まるで雲上の日本庭園 鳳凰三山

実施日 2013年6月28日(金)~30日(日)
 天候 薄曇り/曇り後晴れ/晴後曇り
 リーダー 遠井 謙策 2班L 中村友子
 参加者 涌井良明、島本陳重、山崎富美恵、鈴木恵美子、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、遠井謙策、中村友子、石原勝正、宇野輝代、小名秀鋭、石附智子、佐藤政司、瀧澤きよの 計15名
 費用 交通費11,560円(新宿起算)
 宿泊費14,500円 計26,060円
 タイム 6/28: 1班 甲府 泊
 2班 甲府駅(12:00バス)夜叉神峠登山口(13:17)夜叉神峠小屋(14:40) 泊
 6/29: 1班 甲府駅(4:40タクシー)夜叉神峠登山口(5:30)夜叉神峠小屋(6:35合流~6:52)杖立峠(8:46)苺平(9:52-10:21)南御室小屋(10:48-11:30)ガマ岩(12:12~12:54)薬師岳小屋(14:00) 泊
 6/30 小屋(4:10)薬師岳(4:19~4:52)観音岳(5:24~5:53)赤抜沢ノ頭(7:26)賽ノ河原/地蔵岳(7:33~8:10)鳳凰小屋(8:34)白糸ノ滝(9:59)南精進ノ滝(11:48)青木鉱泉(13:34~14:30タクシー)韮崎駅(15:18)

梅雨のさ中覚悟の上の計画とはいえ気になる天気。直前の予報は二転三転の末雨の確率50%、最後まで悩まされた。出した結論は決行。参加者15名が歓喜する素晴らしい展望に恵まれることになる。行程を追ってみよう。

6/28 参加各人の都合・希望により2班に分かれた。甲府前泊組(1班)と一足お先の夜叉神峠小屋泊組(2班)。2班はバス・小屋共に貸切で、ウェルカムフルーツやらローストビーフなど高級ホテル並みの歓迎を受けた(らしい)。1班もそれなりの充実の前夜祭？。

6/29 清々しい朝霧の中を1班が追い掛ける。2班の待つ夜叉神峠小屋に到着したのが6:35a.m.。お早うの挨拶も済まぬうち、そこに見た残雪を抱く白峰三山に我が目を疑う。何でこんな晴天なのだ!? 思わぬ幸運に心は舞い上がる。

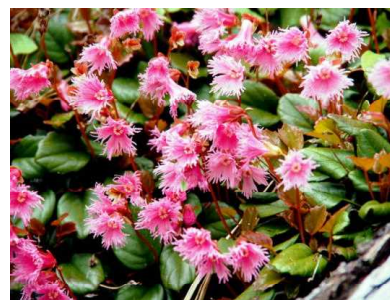


合流合体した長い列が、興奮の中足も軽やかにスタートした。しかし、落葉松林を北上し黒木の樹林帯の単調な緩い登りを行

く頃は、気紛れ天気は又も深いガス。杖立峠を過ぎ、緩く下がって登り返した開けた山火事場跡に着いても、ただ明るいだけの灰色の世界。再び樹林帯に入り急な登りが続く。もう息も絶え絶えだ。苺平で一息入れ南御室小屋へ。広いベンチで弁当を広げ鋭気を養い水を補給。上り最後の水場の為明日の分も含めてたっぷり確保したせいで、ザックが異様に重い。何の此れしき、踏ん張って急登を登り切りガマ岩に出た。



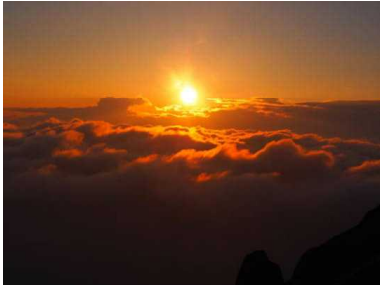
そこは暫しの大人の遊園地。Aさんた



ちは岩茸採りに夢中になり、Bさんたちは群生するイワカガミにズームイン、Cさんたちは昨晚習ったロープワークの実践に

望んで大はしゃぎ・・・課外授業に時を忘れた。そうこうしている内、空も若干明るくなる。少し行くと花崗岩の屹立する砂払岳。ガスの合間から薬師岳が姿を現わす。すっかり回復した陽射しを浴びて、鞍部にある今日の宿薬師岳小屋に着いた。

6/30 未明、見上げれば満天の星、太った三日月がちょっと明るくて邪魔。ご来光を拝むべく4:10a.m.の早立ち。



10分で薬師岳。待つこと15分北東の空がオレンジ色に輝いて来る。明るくなった

山頂周辺は、花崗岩が点在する白砂の庭園だ。そして北西には、昨日遠くに見えた、北岳、間ノ岳、農鳥岳の白峰三山が、より近く大きく堂々と誇らしげに、その長い稜線を見せている。



この見事な展望をどう表現したらいいのだろうか・・・！将にこの光景を臉に刻みたいの一心で、ここまで頑張ってきたのだった。

鳳凰山最高峰の観音岳がすぐそこに見える。ゆっくりとゆっくりと、ここにいる幸せを噛み締め乍ら歩く。前方間近に女王仙丈ヶ岳、そのすぐ先に甲斐駒ヶ岳。右手には遠く八ヶ岳の連山が霞んでいる。振り返れば、世界文化遺産富士の霊峰が雲海に浮かぶ。展望の山鳳凰山の面目躍如だ。

巨岩を登り切り観音岳へ到着、ここで朝食を取る。これから向かう地蔵岳やアサヨ峰へ続く稜線も光を浴び、濃さを増した緑が鮮やかに反射する。オヤッ、360度の展望を楽しんでいると、どこからか笛の音が・・・！♪ハッピーバースデーユーユー・・・今日はW氏の誕生日なのだそう。



若い女の子の発想に皆が唱和、感激の眺望に花を添えた。



次に向うのが、赤抜

沢ノ頭。砂礫の鞍部から岩尾根を経て、這うように辿り着くと、正面にオベリスクが圧倒的な迫力でそそり立っている。



何人かが勇敢にも登っているのが見える。すぐ下の賽ノ河原でザックを下ろし、しばし青い空を眺めて大休止

心地良い疲労感で眠ってしまいそう。

さあ最後の難関、長い下り坂。一気に1,600mをしっかりと降りなければならぬ。鳳凰小屋で冷たい水を口に含みドンドコ沢コースに行く。その頃又辺りは一面深いガスに囲まれ始めた。美味しい所だけ絶好の天気とは余りにも出来すぎか・・・？



きつい坂、急な坂、ザレた坂、滑る坂。膝が泣きだす、股が引きつる、顎が上がる。



それでも、五色ノ滝、白糸ノ滝、鳳凰ノ滝、南精進ノ滝の案内が、挫けそうな気持ちに活を入れてくれる。道はやがて平坦になり樹林



を過ぎるとゴールの青木鉱泉が見えた。シャンプーも無く態度も芳しくない割には1,000円もする入浴だったがそれをご愛嬌。苦しさや歓喜溢れる長丁場、チームワークで乗り切った。帰りのあずさ号も満足そうだった。皆様ご協力有難うございました。帰ったらしっかりストレッチしましたか？

(記&写真・遠井 謙策)
(写真提供・涌井 良明)